

人柄と職業経歴

渡辺 広一さん（仮名）インタビュー記録

2004年7月21日 18:00～後半
徳島大学総合科学部1号館第2会議室にて
記録：正島 祐子

1. はじめに

今回インタビューさせていただいた渡辺さんは、高校時代に化学の実験で両手首を欠損し、それ以来義手を使い生活をされている方である。障害についてのインタビューは前半の佐々木の報告に載せている。ここでは、渡辺さんの仕事についてのインタビュー報告である。簡単な職歴を述べると、大学進学、卒業した後B自治体（仮名）に35年近く勤務。そしてB自治体内での多くの移動を経て、現在は研修センター（仮名）スタッフとして勤務されている。

2. 大学進学と職業選択

まずD大学（仮名）に入った理由は、当時D大学が司法試験にいちばん合格者が多かったんです。それでお前弁護士になれと人からいわれてそれなら自分も弁護士になろうかと思ってD大学にいったんです。ところが大学では司法試験を受けませんでした。というのもすべるとわかっていたからです。それで司法試験は受けずに国家公務員の上級試験を受けたんですが、国家公務員の上級試験には受かったんです。そして受かったから当時の厚生省を受けたんです。そこに飛ばされたんです。しかしそこは採用してくれなかった。〔国家公務員試験は試験に合格しても名簿に搭載されるだけで、採用は未確定である。〕しかたないなあって思っているときにB自治体にどうだといわれて、まあそれじゃあB自治体いながら司法試験の勉強でもするかと思って帰ってきたんですけど結局だらだらとなってしまうました。

3. B自治体での仕事

いちばん長くいたのは法令係でした。そこで長いこといました。何をするかって言うと国で言えば法制局みたいなものです。わかりにくいところもありますが。県では条例とか規則を作るんですがその審査をやっていたんですよ。そこで係長まで行きましたね。それから地方課というところが変わって、これは市町村の指導をするところですね。そこを出て次に青少年婦人室というところで、これは青少年の健全育成とか非行防止だとか、婦人の社会進出の促進のための仕事ですね。今は男女共同参画社会といわれていますがこれの前段階です。その次に行ったのは、土地水対策室にいてそこで初めて室長になって、まあ課長級ですね。どういう仕事かという土地って言うのはバブルの後遺症にあったときに土地が値上がりしていたので一定の規模以上の土地〔取引〕については知事の認可が必要

でその指導、水っていうのは堰のような問題や、それに地下水ね、川の周辺の地下水の問題を扱っていました。今度は人事委員会の人事課長で、仕事は県の職員の採用試験等ですね。その次が地方労働委員会で、ここで次長というまあ副部長みたいな。地方労働委員会は労働争議があったときにいろいろ斡旋とか調停するところで、そこを辞めて次に行ったのは芸術の森に文化館（仮名）というところがあるんです。そこでいましてここは大きな二つの仕事というのは文化ネットワーク（仮名）っていうインターネットのネットワークがあるんです。インターネットは大げさですけどコンピュータのネットワーク。それと野外劇場なんか持っていてね、芸術文化のいろいろな催し物もやりました。パソコン打つ時にその義手で不便なところといいますけれど、そこには館長として行きましたからね細かいところはしません。ただこのときにまだ平成7年、8年ですからね、今ほどパソコンなんか普及していませんからね。パソコン習ったところかなって思ったんですけど忙しくてできなかったですね、2年間そういうのなかったですね。そして地方労働委員会というところに帰ってきたんです。ここで事務局長という職についてそれが私のB自治体生活の最後です。

B自治体の仕事の中に何かやりがいがあるというわけではなく、もう司法試験がだめだから仕方ないからB自治体に勤めていたという感じでした。だって他にいくところがないんですもん。

職業選択の際にポイントになったことというのは公務員が働きやすいだろう、時間が取れるだろうということで、それとB自治体に行けと薦めてくれる人がいましたから。今思うと私はB自治体以外の選択肢をとったほうが良かったかなと思うこともあるんですよ。ん、私あまりB自治体が好きじゃなかった。A県（仮名）が好きじゃなかった。A県に帰るのに嫌だと思った。どうしてかというね、私のところにA県の人間が来ると必ず金を貸してくれと言うんです。でまともに返すやつはそのうちの半分くらいで、A県の間人は汚いな、A県には絶対帰るまいと思っていましたんですけどね。まあ仕方なしに帰ってきたということですね。

地方課に入ってA県嫌いが直ったかという、まあ仕事は仕事ですからね、そこは割り切っています。A県嫌いをね、これはどこも同じなんじゃないかな、人って言うのは人をだましますよ。ほんとにね人は信用できない。平成12年、平成14年にひどいことだまされてね。こんなに人間って信用できないものだと思いますね。まあこれはA県だけじゃないと思いますがね。

障害が就職をする際に不利になったかといえば、それはあったんでしょうね。でも少なくとも国家公務員の上級試験に受かったから学歴の面ではそんなになかったです。それと先程も言いましたように人が見るほど不便じゃないですからね。ただ民間会社には行きたくなかった。なぜかという競争が激しうだから。あれだけ激しいともう互していけるかなという気がしました。当時はB自治体に入ったら時間を見て司法試験の勉強をしようとしたので、民間会社には行く気はまったくなかった。

しかしB自治体に就職して実際に司法試験の勉強に時間が取れたかというところ、最初のうちはね6時くらいから12時、2時くらいまでやっていましたけどね、だんだんだんだんと他の事に時間取られて。忙しくなった理由をいうならば、昭和39年に東京オリンピックが行われていたんですね。そのあとに東京パラリンピックがあって、それに私はA県代表として出たんですよ。100m、走り幅跳びの選手としてね、それで身体障害者会の子に誘われたんですよ。断っとけばよかったんですけど私も案外付き合いがいいほうでね、そんな役務を持たされたりしてね。

それと朝8時から5時まで勤めていることがなんか疑問に思えてね。勉強しないで働くことに疑問をもってね。そして司法試験にもう受かるのかなという疑問もでてきて。27ぐらいまで勉強しましたけどね。

そのときに親に今の仕事に悩みがあるとかを言うことはなかった。B自治体を辞めると今度どうするかということが大変だったからね。経済的じゃなしにやめると今度再就職というのが公務員は一定の年齢をこえると今度はいれませんからね。最初は司法試験の勉強はしていたがだんだんと試験を受けるという意識から遠のいていきましたね。

芸術の森までの通勤手段はというと、芸術の森に行く以前は全部B自治体〔建物〕内の移動でしたが、芸術の森は私の家から10分くらい歩いてバス停まで行って、私はB自治体のちかくなんですよ家がね。あのY橋（仮名）のところのバス停に10分ちょっと、10分くらいかかるかな、それで20分くらいで芸術の森に着くんですよ。ちょうどラッシュの反対側ですから。便利なんですよ。だからそんなに不便ではなかったですね。当時まだ自動車の免許持ってなかったですからね、今は持っていますが。

健常者が車に乗るときに比べて審査が難しいというわけではありません。健常者と同じように普通にハンドルをにぎって運転もします。

4. 研修センターでの仕事

研修センターでの具体的仕事の内容は、県とか、市町村の職員の研修施設です。そこで地方自治制度とか、地方公務員制度とか、公務員倫理だとかいろんな科目を持っているわけです。

5. Z園（仮名）との関わり

監事という仕事をしていますが、監事の仕事というのは具体的には会計監査です。会計監査ですからね、年に一回諸帳簿の検査ですね。

身体障害者会というのはまったくのボランティア団体なんです。ですからZ園の職員は給料をもらってますけどね、私たち役職はまったくのボランティアでね、何の報酬もないんですよ。まあ今監事っていうのをやっているんですけどね、まあどうしてなったのかといわれればひとつ難しい問題もありますけれど、何が難しいかって言うと、まあ適任者がいなかったからということなんでしょうね。あの障害者会っていうのはね、人がいないん

ですよ。適任者がいなかったから私をと思ったんでしょうね。

Z園の内部については私全く知らないんです。こないだたまたまZ園の中回られてた時にお会いしましたね。あれはね私何でZ園に行ったのかな、そう私の研修センターというのはZ園の隣なんですよ。それでね研修センターに私土曜日とか日曜日に仕事しにいくときがあるんです。そしたらねだいたい研修センターの広い中で仕事しにきているの私だけなんですよね。ちょっといろいろなもの請け負っているからあれも忙しくてかなわないんでね。よく行くんです。それでお昼ご飯はZ園につくってもらうんです。お昼ごはんくらい人の顔見ながら食べないとね、精神的におかしくなるとはいけないと思って。そういうことがあって、あのときはたまたまZ園にお金を払いに行ってたんです。日曜日には職員のかたいませんからね。そしたら榎田先生〔今回の調査実習の担当の教官〕がおいでになられていますよということですね、じゃあちょっとご挨拶に行きましょうということですね。その程度ですから内部のことはまったくわかりません。

個室化のことについては聞いてはいますがけれどもね、しかし聞きかじりの知識しかないですから、正確に言えるかどうかはわかりません。ただ個室というのはね全国的なあれで、やっぱり人は一人でね、プライバシーの確保されている所で生活したいと思いますね。

6. 障害者水泳会（仮名）

障害者水泳会は平成5年から入っています。A県で国体があったんですね。それで、あ平成4年のね11月でなかったかな初めて泳ぎに行ったのは、平成4年の11月の20日だったと思う。もう誘われて誘われてしてたんですけど、行く気はなかったんですけど、人数が少ないからどうしても来てくれということですね、11月20日プールに行って久しぶりに泳いだら気持ちがよかったもんですからね、それでずっと泳ぎだして。水泳をするときは義手はずします。これはね、水泳は体に何にもつけないということが原則ですからね。タイム計るときは必ずはずします。つけることによってタイムがアップする場合がありますからね、ですからつけないんです。私の場合ですと、つけると〔水を〕かく場合得しますからね。これが国際的なルールです。

で私が入ったからだと思うんですが、前の世話してる人が会長やめたってなりました。渡辺さんしてくれて。それでわたしはそんなのいやだから、潰すわけにはいかないんでね田中（仮名）という男に会長になってもらって、私は副会長になりましたね。会のこの細かいところはできないから根本的なことは考えましよう、細かいことは会長の田中さんにしてくださいよということですね、その後ずっと副会長はしています。

現在も泳いでいるかという、忙しくてね。忙しくてね、すぐ泳ぎにいけたらいいんですけどね、夜5時半ころ家について、で荷物置いてさあ行きましようとなるとね、もうたいそう、できなくなってね、ただB自治体の本庁にいるときはね、B自治体〔建物〕から青少年スポーツセンター（仮名）〔障害者水泳会が練習している施設〕ってのは歩いてそんなにかかりませんでしたからね、終わったらすぐおなかどんなにすいてても無理して行

ってたんです。泳ぐと楽しいですからね、それで家に帰ってたんです。それですから長いこと続けましたけどね。退職して、研修センターに行きだすとね〔遠いので〕ほとんど行っていません。

7. 大学への要望

大学一般と、徳島大学へのご意見はとくにはありませんが、要望といえば先程のこのような〔前半のインタビューで、生産性がないため販売中止になった〕義手ですね、儲けのないようなものについても、発売が中止されるんじゃないしに、研究していただきたいなと思いますね。

感想

インタビューが終わってみて前半の生活面でのインタビューにかわり、後半の仕事面での渡辺さんのインタビューでは事前に知っていることが少なく、質問も考えるのが難しかったため、こちらが考えていた予想とはずいぶん違う答えが返ってくるが多かったという印象を受けた。しかしそれだけ、障害を持つことでいろいろ変わるであろうという私たちのイメージがこんなに大きいものであったかということに気づかされた結果であったとも思う。

しかし生活面での障害の影響と、仕事での障害の影響はやはり違うところもあるのではないかと感じた。お風呂の入り方や、歯磨きの仕方、ボタンのつけ方は時代でさほど変わらないようなことだが、一方仕事をしてみると渡辺さんの「このときにまだ平成7年、8年ですからね、今ほどパソコンなんか普及していませんから」というコメントからもわかるように、仕事のやり方というのは時代でずいぶん、しかも短期間で変わってしまうところが多いのではないかと感じた。だからほとんど仕事の面では苦労がなかったとおっしゃる渡辺さんであったが、それが時代が変わって今就職活動をするということになったとしたら、障害を持つという条件が人生にどう影響するのだろうかと思った。

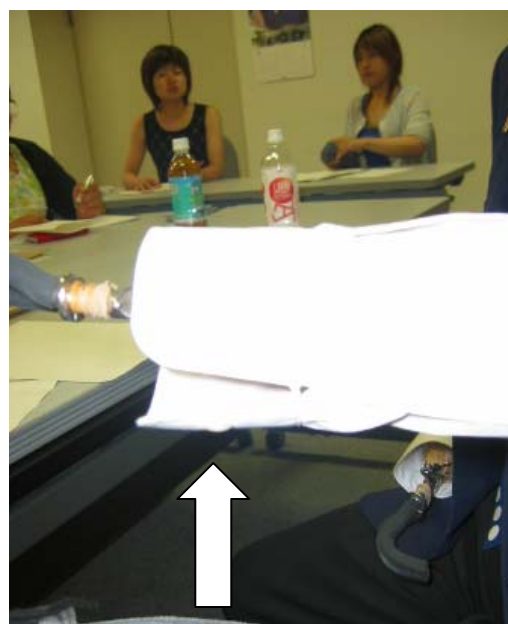
余談にはなるが、インタビューが、終わってから携帯電話を機種変更されたというので携帯電話を使うところを見せてもらった。昔は折りたたみのタイプではなかったのですが電話に出られたというのだが、そのとき持っていらっしやった以前より軽くなった携帯電話は折りたたみになっていて開くのに一度机のような平たいところに置かなければならず、でるのに時間がかかるとおっしゃっていた。しかし開く作業や、耳までに持っていく作業は実にスムーズでなれた感じで携帯電話を使ってらっしやった。他にも荷物を入れているバックにファスナーが開きやすいように紐をつける工夫がしてあったり〔写真1参照〕、ワイシャツが着やすいようにボタンのところを工夫してあったり〔写真2参照〕と仕事をする際に使うものに対しては、さまざまな工夫をされているようだった。このように何もしないならば苦労して行わなければならないことも渡辺さんは苦労なくできる工夫をしているからこそ苦労がないように思えるのだと感じた。

また渡辺さんは障害があるなしにかかわらずさまざまな仕事やボランティアをなさっていて人生経験が豊かな方であるなど感じた。それと同時に本当に忙しい方である。土日も研修センターで仕事をしていらっしゃるのZ園で昼食を召し上がっていたということはインタビューをしてわかったが、「Z園の内部についてはまったく知らない」とおっしゃっていたものの、お昼の時間にZ園の方とコミュニケーションをとっていらっしゃるようである。

* [] 内は正島が記入



【写真1 紐でファスナーを引っ張る】



【写真2 ボタンが工夫されたワイシャツ (ボタンは穴通しでなくワンタッチでつけられるようになっている。)]

徳島大学総合科学部社会学研究室報告 既刊（国立国会図書館等所蔵）

- | | | |
|---|---|------------|
| 1 | エスノメソドロジーとその周辺
ー平成9年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 1998年3月発行 |
| 2 | ラジオスタジオの相互行為分析
ー平成9年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第二版)ー | 1998年10月発行 |
| 3 | エスノメソドロジーと福祉・医療・性
ー平成10年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 1999年2月発行 |
| 4 | 障害者スポーツにおける相互行為分析
ー平成11年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第一版)ー | 2000年2月発行 |
| 5 | 日常生活の諸相
ー平成11年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 2000年2月発行 |
| 6 | 現代社会の探究
ー平成12年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 2001年2月発行 |
| 7 | インタビューと対話の相互行為分析ー気配りと配慮の社会学ー
平成14年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第一版) | 2003年2月発行 |
| 8 | インタビューと対話の相互行為分析ー気配りと配慮の社会学ー
平成14年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第二版) | 2003年9月発行 |
| 9 | 社会学の窓ードラマティックな日常生活ー
ー平成15年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 2004年2月発行 |

義肢・装具のエスノメソドロジー

発行日 2005年2月14日

編集 榎田美雄

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1丁目1番地

(088) 656-9308 E-mail:Kashida@ias.tokushima-u.ac.jp

<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/index.html>

発行 徳島大学総合科学部社会学研究室

印刷・製本 平成16年度徳島大学総合科学部榎田地域調査実習報告書発行プロジェクト
